

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	マーマシのはら保育園・マーマシのはら西保育園
経営主体(法人等)	社会福祉法人 遊育会
対象サービス	児童分野 保育所
事業所住所等	〒222-0026 横浜市港北区篠原町974-25
設立年月日	平成15年8月1日
評価実施期間	令和元年5月 ～令和元年12月
公表年月	令和2年1月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市版
総合評価（事業所の特色や努力、工夫していること、事業者が課題と考えていること等）	
【施設の特色】 ・立地および施設の概要 マーマシのはら保育園（本園）は、JR横浜線または横浜市営地下鉄ブルーライン新横浜駅から徒歩12分ほどの静かな住宅地にあります。社会福祉法人遊育会を経営母体とし、平成15年8月1日に開園しました。園舎は赤レンガ造りの2階建てです。南向きで陽だまりの保育室、間接照明の落ち着いた空間、天井の高さが生む開放感、子ども達が大好きな園舎1階中央部分の多数の熱帯魚（セルフィンプレコは園の主）が泳ぐ2メートルの丸型水槽、小さなおひさま文庫、毎月海外から取り寄せている本などもあるブックコーナーなど、環境作りにこだわっています。園舎横の園庭には、斜面を利用したすべり台や、ジャングルジム、雲梯などの大型遊具が置かれ、子どもたちの遊び場となっています。 分園のマーマシのはら西保育園は、本園から徒歩10分ほど（新横浜駅から徒歩12分）の住宅地にあります。園舎は2階建てでエレベーターを備えたバリアフリー構造になっています。本園と同様に玄関ホールに小さなおひさま文庫があります。 本園は2歳児から就学前児童を受け入れ、定員は120名で現在134名在籍、分園は0、1歳児を受け入れ、定員は46名で現在46名が在籍しています。 ・園の特徴 分園の1歳児クラスは、高月齢、低月齢で分け、保育室も1階（低月齢）、2階（高月齢）にしています。本園の2～5歳児クラスは、各年齢2グループの保育室に別れていますが、同じ活動をしています。 遊育・知育・食育を三つの柱に、園生活は「もう一つの大きなおうち」、恵まれた豊かな環境の中で、安全や小さな危険を体験したり、自然やお友だちと積極的にふれあったり、様々な素材や遊具と主体的に関わったりして、自分で考えて行動する保育を目指しています。養護と教育の一体的保育の推進のため、プロの講師による、運動保育、リズム運動、わらべ歌、外国人交流、読み語りなどをとり入れ、マーマ・キッズキッチンという食育活動を計画的に行っています。 【特に優れていると思われる点】 1.子どもの発達過程に応じたきめ細かな対応 分園の子ども達は、成長発達が著しく、月齢による差が大きい0、1歳児なので、クラスごとに高・（中）・低月齢に合わせた指導計画にし、子どもの育ちを丁寧に見守っていかうとしています。また、子どもの生活を24時間で捉えるため、家庭での起床時間、降園後の夕食、就寝時間なども日課表に記載（毎月作成）し、園生活に生かしています。 進級時に作成する本園・分園の全園児分の一覧表は、健康・遊び・家庭支援など7項目から成り、子どもの状況をきめ細かく申し送り、進級後の生活につなげています。	

2.環境構成の配慮

子どもにとって保育園は昼間過ごすもう一つのおうちとして、子どもの発達に合った、想像力を養える、見立てがきくおもちゃを置くことを心がけています。大切に扱えば長く使える木のおもちゃなど、質の良い本物に触れられるようにしています。また、子どもの興味関心を受け止めた職員の手作り品も重要なアイテムになっています。0歳児クラスの箱状のものに電気のスイッチ、鍵、電卓などを取り付けた道具は子ども達のお気に入りです。5歳児クラスでは、子どもが関心を示したエアコンを、段ボールを利用して作りました。部品のルーバーやフィルター、リモコンなど細かな部分も、子どもが自分の世界に入り込んで遊べるようこだわって再現しています。遊びは他の子どもにも広がり、エアコンは発表会の劇にも登場することになりました。

3.丁寧な食育活動

「楽しい・美味しいを食する」をイメージし、丁寧な食育活動を展開しています。横浜市が推奨するゴミを減らすための環境教育の一環として、「3R夢農園」を作り、調理で出た残りものから土作りをし、クラスごとに野菜や果物を育てています。クッキングは2歳児から、栽培したイチゴでジャムづくりをしています。4歳児は味噌作りをする体験もあり、発達に合わせて食に関心をもてるような取り組みをしています。4歳児の3月から、キッズキッチンとして、五感で楽しむお料理体験として、「道具が肝心、お料理ってどうやるの？に始まり、ご飯を炊く、だしをとる、炒める・煮る、すりつぶす、焼く、揚げる、こねる・のばす、形を作ろう」をテーマにして、年間食育計画を立てて行っています。さらにさんまの炭火焼きや収穫したサツマイモを焼き芋にしたり、餅つきをして、食文化を大切にしています。

4.すこやかサークル交流を通しての地域連携

篠原・岸根地区の幼・保・小、中、高、養護、PTA、自治会との連携サークル（すこやかサークル）が活発に機能しています。カリキュラム交流を行い、幼稚園、1年生、5年生との交流会や、中高生、養護学校生の職業体験を受け入れています。また、岸根高校の文化祭の中で行われるすこやか祭りに子ども達が参加したり、篠原中学校の吹奏楽部がクリスマスの時期に園を訪問し、演奏を披露してくれたり、職員が中学校に職業紹介の話をしに出向いたりして、地域の中で育っていく子ども達のための連携や支援などについて積極的な活動を継続し、取り組んでいます。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1.定期的な育児相談体制

園開放や育児講座など、参加者の育児相談には随時応じています。育児相談については、さらに定期的（最低週に1回）に相談日を設けて対応する体制をつくることが期待されます。

2.職員への人材育成計画の周知と人事考課制度の開示

設置法人が策定した、人材育成計画（職員のキャリアステージにおける人材育成指標）と給与規程に人事基準の規定がありますが、職員により周知度にばらつきがあります。人材育成計画を全職員に周知するとともに、昇進・昇格に関する人事基準、人事考課制度を開示し、職員のキャリア形成やスキルアップに見通しを持てるようにすることが期待されます。

評価領域ごとの特記事項

1.人権の尊重

- ・保育理念は「一人一人の子どもの個性と健やかな育ちを支えます」以下 3 項目から成り、保育方針は「遊育・食育・知育の調和のとれた環境の中で生きる力を育む」などを掲げ、園目標もつくり、それらはすべて子ども本人を尊重したものとなっています。
- ・子どもの気持ちを尊重し、せかしたり、否定的な言葉は使わず、子どもたちに分かりやすい声かけや、共感して、寄り添った保育を心がけています。気になる対応については職員間で意見を言いあえる関係ができています。子どもの人格を尊重した保育について、自己評価の項目にも取り入れて確認を行い、全職員が認識

	する機会を作っています。 ・「園生活のしおり」に個人情報の取り扱いについて記載し、園内での撮影禁止、個人情報についての問い合わせには答えられないことを保護者に伝えています。入園時に、ホームページや印刷物への子どもの写真掲載の可否を聞いています。 ・職員は採用時、ボランティアと実習生にはオリエンテーション時に個人情報の取り扱いや守秘義務について説明し、誓約書を提出してもらっています。個人情報に関する書類の園外持ち出しの厳禁、本園と分園の間でも、個人情報のやりとりはファックスやメールも控えています。 ・名簿の順番は生年月日順にし、遊びや役割、劇の配役やグループ分けを性別で分けていません。性差について、固定観念をもって保育してはならないことを全職員が理解していますが、特に意識することなく、反省する仕組みはありません。 ・虐待対応マニュアルがあり、職員に虐待の定義を周知しています。港北区こども家庭支援課、横浜市北部児童相談所、小学校、保健師など適切につなげ、連携を図る体制があります。
2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供	・分園の職員は担当制で2～4人の子どもを受け持ち、一人一人の生活のリズムに沿った個別のデイリープログラムを策定し、毎月見直しをして対応しています。 ・分園から始めた「わらべうた」は、膝の上で心地よい言葉の響きに触れ、職員との愛着が深まります。職員の側にも自然と子どもの目線に合わせ、発達にあった対応ができるようになってきた効果が見られ、本園でも取り入れています。 ・分園の乳児にも、クレヨン、のり、絵の具、小麦粉粘土、寒天、おりがみなどを用意して、夏には水や泡に触れるなど、子どもが感触を楽しみながら表現できるようにしています。 ・本園は園庭使用時間割表を使い、クラスごとに午前中の前半・後半や午睡後に園庭に出る日を決め、安全に配慮し、また遊びが偏らないようにしています。 ・子どもの心身の発達が整ってからトイレトレーニングをするようにしています。大人の都合でおむつとパンツを併用することはしない方針であることを保護者に伝えています。 ・園の立地が土砂崩れ警戒区域に指定されていることを重要事項説明書に明記し、対策も含め消防署と検討し、乳幼児が移動できる避難方法、場所を想定して、避難訓練を行っています。電気・ガス・水道のライフライン不通を想定した訓練を行い、発電機を備え、備蓄品の確認と全職員への周知をしています。 ・事務所にヒヤリハット報告ボードがあり、半期でまとめて分析し、事故を未然に防ぐ努力をしています。園内の安全点検を毎月実施し、また、散歩マップへ危険箇所を書き込み、全員で確認しています。 ・保護者参観でリズム運動などの特別活動を見てもらい、保護者にいかに生き生きとした子どもの姿や、園の目標である身体づくり、心づくりのための保育の内容、園の方針を理解してもらえるか、内容を検討しています。

	・懇談会のお知らせを配付し、事前に、懇談会で話し合いたいテーマや質問などを保護者から募っています。懇談会ではテーマを決めて、保護者同士話し合う機会を設け、他者の保育観を知る機会としています。 ・分園では、保育参観「すこやか広場」を年 2 回土曜日に設定し、親子のふれあい遊び、コーナー遊びを体験してもらい、そのほか生活の様子のビデオを上映して、子ども中心の園生活の様子を伝えています。
3.サービスマネジメントシステムの確立	・理念・方針・保育目標を掲示し、日々確認できるようにしています。3月下旬の職員会議（スタート会議）で、理念に基づいた年間の方向性・活動内容の周知や、園が培ってきたものを再確認し、意識を高めています。 ・各年齢や個性に応じて、その子どもに分かりやすい説明（伝え方）をし、子どもが理解して納得することを大切にしています。年齢によっては、決め事をする際に子ども達から意見を募り、その中から全員が納得をして決定できるようにしており、それらを指導計画に反映させています。 ・新入園児が園生活を無理なく始められるよう、導入保育（期間は 0～2 歳児は 8～10 日間、幼児は 5 日間を目安）を行い、2 歳児クラスまでは年間を通した担当制など配慮をしています。在園児に対しては、分園から本園での生活に変わる 2 歳児クラスは環境の変化が大きいため、特に意識して配慮しています。 ・異年齢でふれあえる場として、子育て支援スペースや小さなおひさま文庫、ブックコーナー（本園）があります。 ・外国籍で文化の違う子どもとの関わりは、絵本、紙芝居、世界地図、地球儀などを通して、色々な国の人が暮らしていることやみんな違いがあることを子どもたちに伝え、自然に受け止めることができるようにしています。4、5 歳児クラスは毎月外国人交流で異文化に触れる機会を持っています。 ・保護者が苦情や要望を表せる仕組みとして、意見箱の設置、連絡ノート、送迎時のコミュニケーション、アンケートなどがあります。第三者委員の来園時には出された苦情や要望の報告をしています。職員会議や非常勤職員向けのサポート会議、昼礼などで全職員が情報を共有し、話し合うようにしています。
4.地域との交流・連携	・篠原・岸根地区のすこやかサークルが活発に機能し、地域での連携や支援などについて活動を行っています。港北区、社会福祉協議会、公私立保育園が開催の「わくわく子育て広場」の活動に参加し、各地域の子育て支援情報を得ています。 ・子育て支援事業の園開放で、本園と分園でそれぞれプロの紙芝居の読み語り、リズム運動を毎月行っています。絵本の貸し出しは両園とも毎週水曜日に行い、分園で「ママ学びのお部屋」（育児講座）として、ベビーマッサージ、食育講座など年2、3回行っています。 ・事務長が篠原中学校区防犯パトロールに参加したり、庭で遊ばせてもらっている方の竹林の裏山や近隣の公園の清掃をしています。音の出る行事の前には事前に掲示や手紙で知らせ、地域と友好的な関係を築いています。 ・分園の 0、1 歳児は近隣の高齢者施設を訪問し、デイサービスに来る高齢者と交流の機会をもっています。また、年長児が南部エリアドッジボール大会や、地域

	すこやか音楽交流会に参加したり、小学校訪問に行っています。 ・見学は保育に支障が出ないよう、1日4組まで受け入れ、可能な日をホームページに開示して直接申し込みができるようにしています。本園で園の基本方針などを説明し、必ず本園・分園両方を見てもらうようにしています。 ・年3回地域向けに「ぴよんニュース」を発行し、すこやかサークルの定例会で配付したり、自治会の掲示板に貼って園の開放日程や育児講座、貸し出し絵本などの子育て支援の内容や園の保育の様子を知らせています。
5.運営上の透明性の確保と継続性	・園の3R夢農園での生ごみを利用した土づくりや野菜作りは、横浜市資源循環局の指導サポートを受け、廃材の活用、LED照明など環境配慮の考え方、取り組みを「当園はECOの芽を育てます」として玄関掲示で保護者に知らせています。 ・設置法人の人材育成計画により、主任クラスの人材育成が計画的に行われています。主任は積極的に現場に入ってコミュニケーションを図り、各クラスチーフからの情報なども得て、個々の職員に指導・助言を行い、相談に乗っています。 ・園長は、横浜市や港北区の園長会、全国社会福祉協議会が主催する施設長会議、法人内の管理職会議などで事業運営に関わる情報の収集をし、分析しています。 ・2019～2023年「マーマ保育園の未来像中長期計画」を立て、園の方向性を定めています。単年度事業計画として、安定した園運営を基に、保育の質の向上、安全保育管理を上げています。2018年自己評価表（保護者アンケート含む）のまとめから、2019年度の方向性を決め、取り組んでいます。
6.職員の資質向上の促進	・毎年の法人研修は全職員出席を基本とし、昨年度はチームワーク、今年度はマネジメント（保育理念を考える）をテーマに学んでいます。園内研修は現場ですぐに生かせる内容にし、嘔吐処理、心肺蘇生など外部講師を招き、全員が出席できるよう日程は2日間、時間帯も昼・夜で設定しています。その他、「食事」「保育のつながり」などグループ討議形式でも行っています。 ・職員会議の翌日に非常勤職員向けのサポート会議を実施しており、常勤職員と同じ内容を共有しています。 ・実習生受け入れ時にはオリエンテーションを行って、園と実習生の趣旨を明確にしています。実習生の感想や意見・職員の気づきは記録に残し、今後の運営に生かしています。 ・園の自己評価は職員がグループごとに5分野全38項目について話し合い、計画的に行う仕組みになっています。園長は、職員の自己評価結果から園としての課題を抽出し、翌年度にさらに力を入れるべきことや研修計画に反映させ、改善に取り組んでいます。 ・第三者評価受審にあたっての自己評価は本園、分園それぞれで行い、評価の違いが出た項目の分析を行い、両園での意識や考え方について、再度話し合い、園の自己評価としてまとめています。 ・園長は、職員と人材育成指標や給与規定に基づき面談をし、成果・貢献度を評価しています。その他、必要に応じて随時、満足度や要望など把握に努めるとも

	に、職員に気づきを与えるような言葉かけを心がけ、モチベーションの維持、向上への働きかけを行っています。
--	---

評価機関による評価

令和元年 12 月 27 日

事業所名 マーマしのはら保育園（本園）
ママしのはら西保育園（分園） 3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 子ども本人の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
I－1 保育方針の共通理解と全体的な計画等の作成   	・ 保育理念は、「一人一人の子どもの個性と健やかな育ちを支えます」以下3項目から成り、保育方針は「遊育・食育・知育の調和のとれた環境の中で生きる力を育む」「幼児期の終わりまでに育って欲しい力の基盤を培い、就学期にその育ちをつなぐ」を掲げています。園目標もつくり、それらはすべて子ども本人を尊重したものとなっています。 ・ 理念・方針・保育目標を掲示し、日々確認できるようにしています。3月下旬の職員会議（スタート会議）で、理念に基づいた年間の方向性・活動内容を周知し、園が培ってきたものを再確認し、意識を高めています。その他、園長は、会議、日常会話、園だより（ぴよんぴよんだより）の園長コメントなどで、理念・方針に基づいた保育の実践について、職員に取り組んで欲しいことを伝えていきます。 ・ 全体的な計画は、子どもの健全な育ちを第一に考えながら、保育理念・方針・園目標に基づき、本園のほか分園があること、積極的な地域とのかかわり、地域の子育て支援についてなどを考慮しながら作成しています。 ・ 保護者には全体的な計画に基づいた一年間の子どもの育ちや保育の進め方について、各クラスの担任が年度始めの懇談会で説明をしています。 ・ 全体的な計画に基づき、年間指導計画を作成しています。年齢に応じた成長段階を「身に付けていきたい姿、活動のめやす」として一覧表があり、それらを基に月間指導計画、週案につなげています。その他に、保健年間計画、年間食育計画を作成しています。指導計画は、子どもの状況に合わせて追加や変更も柔軟に行っています。 ・ 各年齢や個性に応じて、その子どもに分かりやすい説明（伝え方）をし、子どもが理解して納得することを大切にしています。また、子どもの話そうとする姿にゆっくりと向き合い、耳を傾けています。年齢によっては、決め事をする際に子ども達から意見を募り、その中から全員が納得をして決定できるようにしており、それらを指導計画に反映させています。
I－2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施   	・ 面接や提出書類で得た子どもの生育歴や性格などを参考に、入園までの受け入れ準備をしています。スタート会議では子どもの一覧表を作成しています。それを全職員に周知、共有しています。 ・ 新入園児が園生活を無理なく始められるよう、導入保育（期間は0～2歳児は8～10日間、幼児は5日間を目安）を行い、2歳児クラスまでは年間を通した担当制など配慮をしています。在園児に対しては、分園（しのはら西園：0、1歳児）から本園（しのはら園：2～5歳児）での生活に変わる2歳児クラスは環境の変化が大きいため、特に意識して配慮しています。 ・ 0歳児は分園で生活や活動をしています。職員は優しく穏やかな言葉かけ、ゆったりとした関わりをしており、子どもが職員を信頼し、安心して過ごしている様子がうかがえます。月齢や成長に合わせた玩具のほか、生活用具、絵本などが子どもの手の届く場所に置かれ、手にすることができるようになっています。

	す。職員手作りの箱状のものに電気のスイッチ、鍵、電卓などを取り付けた道具は子ども達のお気に入りです。 ・1歳児クラスは分園で生活や活動をしています。クラスを高月齢、低月齢で分け、保育室も1階（低月齢）、2階（高月齢）で分けています。2歳児クラスは、本園で2グループに分け、保育室も別になっています。 ・1才以上3歳未満児の保育は、子どもが自分でやりたい気持ち、意欲を大切にしながら見守り、励まし、できた時は十分に褒めています。甘えの気持ちも受け止めて援助しています。保育士の見守りや関わりの中、ままごと、人形遊び、ブロック、机で絵本を見るなど自分のやりたい遊びをしています。 ・3～5歳児クラスはそれぞれ2グループの保育室に別れていますが、活動や生活は同じにしています。 ・3歳児クラスはやってみて楽しかったという気持ちになれるように子どもの取り組みの様子を見守ることに努めているほか、自分のことを主張したい気持ちを受容しつつ、安定して活動ができるような声かけや援助をしています。 ・4歳児クラスは集団遊びを取り入れながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさや充実感を味わえるようにしています。 ・5歳児クラスは行事や活動に向けてクラスで話し合ったり、当番活動をしたりする中で、個々の力を発揮し、友達と協力して一つのことをやり遂げるような活動をしています。 ・5歳児クラスの年間指導計画にアプローチカリキュラムの項目があり、「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」に照らし合わせ、小学校への円滑な接続のための計画をたてています。 <工夫している事項> ・分園の子ども達は、成長発達が著しく、月齢による差が大きい0、1歳児なので、クラスごとに高・（中）・低月齢に合わせた指導計画にし、子どもの育ちを丁寧に見守っていかうとしています。また、子どもの生活を24時間で捉えるため、家庭での起床時間、降園後の夕食、就寝時間なども日課表に記載し、園生活に生かしています。
I-3 快適な施設環境の確保 	・本園・分園の園舎内（沐浴設備を含む）はマニュアル、手順書（トイレ）、当番表、チェック表に基づいて毎日清掃をし、清潔な状態を保っています。 ・本園・分園の保育室にはエアコン、扇風機、空気清浄機、加湿器を設置しています。本園の廊下は床暖房にしています。掃き出し窓は大きく、すべての保育室に陽光を取り入れることができます。窓は適宜開け、風が通るようにしています。職員の声も環境と考え、声の大きさやトーンに注意しています。 ・子どもの発達に応じた環境を確保するため、0～2歳児クラスは、低い棚やカーペットでコーナーを作っており、子どもたちが好む空間づくりをしています。異年齢でふれあえる場として、子育て支援スペースや小さなおひさま文庫、ブックコーナー（本園）があります。
I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力 	・分園は全園児、本園は2歳児クラスで、園で心身ともに安定した生活が送れる配慮やねらいなどが、子どもの育ちや保育につながるよう個別指導計画を作成しています。幼児で特別な配慮が必要な子どもについては、月間指導計画の個別配慮欄と日誌の特記欄を活用しています。 ・個別の課題がある場合は、職員会議で共通事項として話し合い、ほかの職員からの意見も参考にして保育や援助の柔軟な変更、見直しを行っています。保護者には、離乳食の進め方、トイレトレーニング、伸ばしていきたい長所など園での工夫点を交えながら説明し、同意を得ています。 ・子どもの成長発達記録は、0～2歳児は毎月、3歳児以上は3か月ごとに経過記録に記録しています。入園時に把握した生育歴（児童票、健康管理カードなど）を始め、子どもの記録は個別にファイルしています。 <工夫している事項> ・進級時に作成する全園児分の一覧表は、健康・遊び・家庭支援など7項目から成り、子どもの状況を丁寧に申し送っています。

I－5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み 	・アレルギー、外国籍、発達面、家庭環境など、特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れる姿勢があり、受け入れています。 ・障がいのある子どもの保育について、集団生活を共に過ごす中で、子ども同士が互いを認め合い、育ちあえるようにしています。障がいのあるなしにかかわらず、一人一人が居心地の良い環境作りに努めています。 ・虐待対応マニュアルがあり、職員に虐待の定義を周知しています。港北区こども家庭支援課、横浜市北部児童相談所、小学校、保健師など適切につなげ、関係機関と連携を図る体制があります。その他、必要に応じて個別のノートを用意し、子どもの様子を書き留めたり、全職員で見守ったりするようにしています。 ・食物アレルギーのある子どもの除去食の提供について、毎月、保護者に献立表をチェックして返却してもらい園で確認し、再度保護者に渡しています。食材に卵は使用していません。除去のある子どもの食事は、席を固定し、専用のトレイ・食器（色が違う）、名札、布巾を使用しています。配膳は最初に行います。食事の時は職員がかたわらに座り、誤食のないようにしています。 ・外国籍で文化の違う子どもとの関わりは、絵本、紙芝居、世界地図、地球儀などを通して、色々な国の人が暮らしていることやみんな違いがあることを子どもたちに伝え、自然に受け止めることができるようにしています。4、5歳児クラスは毎月外国人交流で異文化に触れる機会を持っています。 <工夫している事項> ・毎月海外の絵本を取り寄せています。ブックコーナーの1つの本棚を「ワールドライブラリー」としており、子どもが異文化に触れる機会にもなっています。
I－6 苦情解決体制 	・保護者が苦情や要望を表せる仕組みとして、意見箱の設置、連絡ノート、送迎時のコミュニケーション、アンケートなどがあります。第三者委員を交えて対応する仕組みもあり、委員2名の氏名・連絡先を園生活のしおりに明記し、玄関に掲示しています。第三者委員の来園時には出された苦情や要望の報告をしています。 ・横浜市福祉調整委員会とかながわ福祉サービス運営適正化委員会を他機関の苦情解決窓口として紹介しています。 ・「苦情要望対応記録」があり、苦情の申し出から対応までの記録をしています。職員会議、非常勤職員向けのサポート会議、昼礼などで全職員が情報を共有し、話し合うようにしています。園のみで解決できない場合は、港北区のこども家庭支援課と連携して対応することとしています。

評価領域Ⅱ 保育の実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅱ－1 保育内容[遊び] 	・年齢ごとに子どもの興味や関心、発達に沿ったおもちゃや絵本、製作の素材を用意しています。子どもの目線に合わせて取り出しやすいように、カゴなどに種類ごとに分けて入れ、低い棚に置いています。それぞれの場所に写真を貼って、子どもたちが自分で片付けられるようにして、適宜入れ替えもしています。 ・おもちゃの配置を工夫してコーナーを設定し、絨毯を敷いて、子どもが落ち着いて遊べるようにしています。継続したい製作や、ブロックなどの作品は、金曜日まで棚の上に置いておくことができ、週初めには子どもは納得して解体してもとに戻し、また一から遊んでいます。（本園） ・絵本の世界や体験したことから生まれた子どもの発想を、劇やごっこ遊びなどに発展させています。保育士はその遊びに必要なものを一緒につくったり、ヒントを与えて子どもの発想が広がるようにしています。（本園） ・朝の会で静かに話を聞いたり、リズム運動やクッキングなどの一斉活動は、自由遊びとメリハリをつけて取り組み、自然とルールや社会性が身につくように援助しています。（本園） ・本園の中央にある直径2メートルの丸水槽に、メダカや熱帯魚、セルフィンポ

- レコ（熱帯魚でナマズの一種）を飼っています。本園・分園ともに保育室内でカブトムシやカタツムリ、鈴虫などを飼育して、夏が終わると死んでしまい、卵を産んで命がつながることを身近に体験しています。また、クラスごとにプランターに給食の残廃で土作りをして3R夢農園として、野菜を育てています。
- ・散歩や園外活動で、日常的に四季の草花、身近な自然にふれることが出来る環境で、花や植物、生き物の名前を意識的に伝えて、積極的に散歩に出かけています。
 - ・わらべ歌に乳児期から親しみ、保育室内のピアノや電子オルガンを子どもが自由に弾くことができ、歌をうたいながら鍵盤にふれる子どももいます。年齢にあわせて、リズム運動、学校ごっこ（イスに座って行う活動）、絵の具で絵を描く、ボディーパーペインティングなどを取り入れ、心身の自由な表現を楽しむことができるようにしています。（本園）
 - ・乳児期のかみつきやひっかき、おもちゃの取り扱いなどは、個々の様子を把握し、環境を整えることである程度予防できるので、空間と時間の環境を整え、手が出るまでに介入することを心がけています。幼児の子ども同士のトラブルについては、職員はそばで見守り、できるだけ自分たちで解決できることを大切にしています。言葉でうまく表現できない子どもには、気持ちを代弁しています。
 - ・散歩や園庭遊び、わらべ歌、リズム運動、月の会（毎月の合同朝の会）、朝夕の合同保育時間などを通して、日常的に異年齢と触れあうことができます。少人数ずつ、グループごとに交流をしています。（本園）
 - ・戸外活動の際には、熱中症指数、光化学スモッグの情報を確認してから可否を判断しています。各自襟たれのついた帽子を着用し、夏はテラスに日よけを設置しています。蚊対策に、希望を聞いて虫除けスプレーを使用しています。
 - ・分園では、散歩先の地形を利用して、斜面のぼりや斜面を滑り下りる、木の根のある起伏のあるところを歩く、芝生や土の上を走る、飛び降りる、一本橋わたりの動きをするなど、全身を使って遊んでいます。本園は、園舎の建つ地形を利用して、園庭に斜面や大型木製遊具を設け、また、リズム運動や運動保育の時間があり、身体を大きく使って遊べるように配慮しています。
- <工夫している事項>
- ・環境の研修を受け、子どもにとって保育園は昼間過ごすもう一つのおうちとして、子どもの発達に合った、想像力を養える、見立てがきくおもちゃを置くことを心がけています。大切に扱えば長く使える木のおもちゃなど、質の良い本物に触れられるようにしています。
 - ・分園の職員は担当制で2～4人の子どもを受け持ち、一人一人の生活のリズムに沿った個別のデイリープログラムを策定し、毎月見直しをしてきめこまかく対応しています。
 - ・本園の園舎の壁は煉瓦と木などを用い、天窓があったり間接照明を取り入れるなど温かい雰囲気、保育室内は絨毯を敷いたり、子ども用のソファを置くなどしています。
 - ・子どもが関心を示したエアコンを段ボールで作り、ルーバーやフィルター、リモコンなど細かな部分も再現し、子どもが自分の世界に入り込んで遊べるようにしています。それを劇の中にも登場させて、子どもが興味をもって、自然と参加できるようにしています。（本園）
 - ・分園の乳児にも、クレヨン、のり、絵の具、小麦粉粘土、寒天、おりがみなどを用意して、夏には水や泡に触れるなど、子どもが感触を楽しみながら表現できるようにしています。
 - ・わらべうたは、ひざの上で心地よい言葉の響きに触れ、職員との愛着が深まります。職員の側にも自然と子どもの目線に合わせ、発達にあった対応ができるようになってきた効果が見られます。
 - ・本園では園庭使用時間割表を作り、クラスごとに午前中の前半・後半や午睡後に園庭に出る日を決め、安全に配慮し、また遊びが偏らないようにしています。

Ⅱ－１

保育内容[生活]



- ・苦手なものは一口でも食べてみようと言をかけ、食べられたときは褒めて好き嫌いを無くせるように心がけています。0、1、2歳児クラスは職員が担当制で、「もぐもぐね」などと声をかけ、離乳期から手づかみでも食べられる形状にするなど、子どもの食べる意欲を引き出しています。
- ・本園では鍋やお櫃を子どものテーブルに持っていき、食欲や体調に合わせて、子どもの目の前で一人一人食べられる量を聞きながら配膳しています。「いいにおい」「おいしそう」などの子どもの発言があり、子どもの食べる意欲につながっています。3歳児クラス以上は職員も一緒に食事をし、会話をしながら楽しく食べることを大切にしています。
- ・季節感を大切にし、原則として国産の旬の食材を使い、大きさや硬さに配慮し、かわいい型抜きなどをして、盛り付けを工夫しています。月行事に応じてお楽しみメニューを提供しています。
- ・調理担当者はクラスの食事の様子を見て回り、子どもが意欲的に食べているか、食べやすさにも注意し、とろみをつけるなどの調理法や、食具の選定などの改善に生かしています。分園では連絡ノートにも目を通し、家庭での食事状況を把握しています。
- ・調理担当者と連携して、給食のメニューに合わせて、0歳児からトウモロコシやソラマメなどの皮むきやきのかき割り、ピーマンの種取り、根菜洗いなど年齢に合った手伝いをして、食材に触れています。
- ・園でイチゴやブルーベリーの栽培をして、子どもたちがイチゴを摘み取り、2歳児からジャムづくりをしています。サツマイモを収穫して、焼き芋や干し芋にして食べたり、4歳児は味噌作りをする体験もあり、発達に合わせて食に関心がもてるような取り組みをしています。
- ・授乳は入園時に家庭での様子やペースを聞き、個々のリズムや要求の表現を汲み取りながら、試行錯誤をしつつ園生活のリズム作りをしています。子どもの要求するときにいきなり、1対1でしっかりと抱き、静かなところで行うようにしています。(分園)
- ・離乳食の提供時は、量よりも、咀嚼や嚥下、意欲などが総合的に促されることが目的で、一人一人状況が異なることを理解しています。しっかりと膝に抱き、段階に応じた対応を心がけています。(分園)
- ・献立表は毎月月末に翌月分を保護者に配付しています。「マーマ食育だより」の中には、毎月のテーマを設定し、家庭でその季節に特に取りたい栄養素など献立作成のポイントが記してあります。また、食欲のないときや体調の悪い時におすすめのメニューのレシピも、時期に応じて提供しています。
- ・毎日の給食は、写真に撮ってデジタルフォトフレームに映し、保護者に知らせています。
- ・保育参加の中で、保護者の要望があれば、給食を試食することができます。年長児のクッキング(キッズキッチン)の参観の際は、子どもが作った料理と一緒に食べることができます。
- ・午睡前にカーテンを閉めて、落ち着ける雰囲気にして、子どもの好きな姿勢で入眠します。眠りに落ちたあとに、うつ伏せの子どもは仰向けにしています。1歳未満児は5分、1歳以上児は10分おきに呼吸チェックをして、記録しています。
- ・年長児は年末か年明けごろから徐々に午睡時間を短くしていき、1月末頃には一斉活動とせず、子どもの体力に応じて必要な時だけとっています。
- ・排泄は子どものペースで、行きたいときに行くようにしていますが、散歩の前などは一斉に声をかけ、トイレに行っています。
- ・1歳後半からトイレトレーニングに向けて、排泄チェック表を用いて個々の排泄のペースを把握しています。保護者とは個人面談や送迎時の会話、連絡帳で排泄情報を共有し、連携してトイレトレーニングを進めています。
- ・おもらしをしても、子どもが恥ずかしい思いをしたり傷つくことが無いよう、人目につかないところで着替えたり、布団を干しています。分園では、午睡時

	はおねしょシーツを用意してもらっています。 ・夕方はクッションを置いて絨毯の上で横になって過ごしたり、ゲームや折り紙などをして、静かに過ごせるようにしています。分園は、他の子どものお迎えの保護者を見て、寂しくならないように、送迎は保育室の入り口までに限定して、遊びを妨げないようにしています。 <工夫している事項> ・4歳児の3月から、キッズキッチンとして、五感で楽しむお料理体験として、「道具が肝心、お料理ってどうやるの？」に始まり、ご飯を炊く、だしをとる、炒める・煮る、すりつぶす、焼く、揚げる、こねる・のばす、形を作ろう」をテーマにして、年間計画を立てて行っています。 ・さんまの炭火焼きや収穫したサツマイモを焼き芋にしたり、餅つきをしたり、なかなか家庭でできない食文化を大切に、実行しています。横浜や港北区の地産地消週間を設定し、食材の展示をして保護者にも関心を持ってもらうようにしています。 ・子どもの心身の発達が整ってからトイレトレーニングをするようにしています。日中はパンツで過ごし午睡時や外出時はおむつをすると子どもが混乱するので、大人の都合でおむつとパンツを併用することはしない方針であることを保護者に伝えています。(分園)
Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理] 	・健康管理・感染症に関するマニュアルがあります。 ・子どもの健康状態は、家庭からの伝達事項と共に、登園時、着替えの時などに観察をし、子どもの健康状態を確認しています。何かあれば園長や主任に報告し、日々の5分間ミーティングで情報共有して、全職員が把握できるようにしています。 ・入園時に、既往症や予防接種歴、かかりつけ医、アレルギーの有無など健康状態を詳しく把握しています。健康上の配慮が必要な場合は、経過についてもこまめに保護者と連携しています。予防接種については、2月の進級説明会時に健康管理カードの記録を保護者に更新してもらっています。 ・保護者には園生活のしおりの「伝染性疾患について」の項目で乳幼児がかかりやすい主な感染症名、感染しやすい期間、登園のめやすを明記し、入園説明会での説明のほか、毎年進級説明会では最新版の園生活のしおりを再配付し、伝えています。 ・子ども一人一人の平熱を把握して、1度以上高い場合は保護者に一報をして様子を見ています。感染症の疑いがある場合は、保護者に速やかに電話連絡し、事務室のベッドでお迎え時を待ちます。 ・園で感染症が発生したときは、速やかに玄関ボードに発生したクラス名とともに掲示をし、保護者へ情報提供しています。また、近隣の発生状況も嘱託医や港北区福祉保健センター、学校、保護者から情報を得て掲示しています。 ・職員には、主任が嘔吐処理の研修を職員会議の中で行っています。また、外部講師による保健・衛生研修を受けています。 ・0～満2歳までは食後にガーゼで歯や口の中を拭いています。2歳過ぎを目安に食後の口すすぎを始め、歯ブラシを順次導入し、歯科健診の際に、歯科衛生士による歯磨き指導を受けています。水道付近に歯磨きの仕方のポスターを貼り、絵本、紙芝居などで歯磨き指導をしています。 <工夫している事項> ・健診前に、気になること、医師への質問などを保護者から集め、健診時に聞いて保護者にフィードバックしています。 ・嘱託医に電話で相談できる関係にあり、健診時に欠席した子どもは、クリニックで健診を受けることができる予備日を設定してもらっています。
Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]	・衛生管理に関するマニュアルがあり、不明点や、改善点がある際は、職員の意見も反映させ、随時見直し、変更は職員会議で伝達し、必要に応じ研修を行っています。 ・清掃はマニュアルに沿って行い、手順・担当を決め、清掃漏れがないように清

	掃チェック表で管理しています。0歳児が遊ぶ布おもちゃは週に1度、1歳児用は2週間に1度洗濯をし、清潔に保つよう配慮をしています。
Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理] 	・安全管理に関するマニュアルがあり、睡眠中、プール活動、食事中などの場面で予測される事故と、その対策について手順と役割分担を決め、職員会議で学んでいます。 ・高い棚は突っ張り棒を設け、おもちゃや衣類などは倒れにくい奥行のある低い棚に収め、可動式の場合はキャスターにストッパーをつけています。棚の上のものには、滑り止めを用いています。 ・災害・事故発生時の緊急連絡先の一覧や職員の緊急連絡網が明記され、緊急連絡時のフローチャートを事務所に掲示しています。保護者には災害用伝言ダイヤルや園のホームページで連絡を取ることになっています。「すこやかサークル」（篠原・岸根地区の幼・保・小、中、高、養護、PTA、自治会との教育連携サークル）があり、地域への連携が取れています。 ・毎月担当者を決めて、地震、火災、土砂災害などを想定した避難訓練や通報訓練を行っています。また、毎年、保護者による引き取り訓練と、消防署の職員を招き、心肺蘇生法、AED（自動体外式除細動器）の使用法、応急手当などの訓練を行っています。地域避難場所へは散歩で行っていますが、災害時には基本的に園に留まることとしています。 ・大きなケガの場合は、保護者に直ちに連絡をして受診し、事故状況、園での処置、受診結果、再発防止のための改善点などを事故記録簿に記録しています。軽傷であっても、ケガをした状況と処置について引き継ぎノートに記載して、5分間ミーティングで共有し、お迎え時に伝達漏れがないようにしています。 ・門扉は暗証番号式の電子錠で施錠し、防犯カメラを設置しています。警察のスクールサポーターと連携し、9月に不審者対応訓練を行いました。不審者侵入時は園内放送で知らせることになっています。 ・不審者情報は、在園・卒園児の保護者や、「すこやかサークル」のネットワークから得られ、港北警察署からはファックスで情報が入ってきます。 <工夫している事項> ・園の立地が土砂崩れ警戒区域に指定されていることを重要事項説明書に明記し、対策も含め消防署と検討し、乳幼児が移動できる避難方法、場所を想定して、避難訓練を行っています。（本園） ・電気・ガス・水道のライフライン不通を想定した訓練を行い、発電機を備え、備蓄品の確認と全職員への周知をしています。 ・外部講師によるリスクマネジメント研修、救急蘇生法を含むケガの対応の基礎知識と実践などの園内研修があります。全員が受講できるように2日間設定して行っています。 ・事務所にヒヤリハット報告ボードがあり、半期でまとめて分析し、事故を未然に防ぐ努力をしています。（本園） ・園内の安全点検を毎月実施し、また、散歩マップへ危険個所を書き込み、全員で確認しています。
Ⅱ－3 人権の尊重 	・子どもの気持ちを尊重し、急かしたり、否定的な言葉は使わず、子どもたちに分かりやすい声かけや、共感して、寄り添った保育を心がけています。気になる対応については職員間で意見を言いあえる関係ができています。 ・分園では、喃語に喃語で応えたり、ベビーサインに「こういうことだね」と子どもの思いや気持ちを受け入れるようにしています。0、1歳の子どもの善悪の判断は無いので、職員の関わり方に常に意識を持っています。 ・子どもの人格を尊重した保育について、自己評価の項目にも取り入れて確認を行い、全職員が認識する機会を作っています。 ・「園生活のしおり」に個人情報の取り扱いについて記載し、園内での撮影禁止、個人情報についての問い合わせには答えられないことを保護者に伝えていきます。入園時に、ホームページや印刷物への子どもの写真掲載の可否を聞いています。

	・職員は採用時、ボランティアと実習生にはオリエンテーション時に個人情報の取り扱いや守秘義務について説明し、誓約書を提出してもらっています。個人情報に関する書類の園外持ち出しの厳禁、本園と分園の間でも、個人情報のやりとりはファックスやメールも控えています。個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる棚に保管しています。 ・名簿の順番は生年月日順で、子どもの希望を聞いて活動しており、遊びや役割、劇の配役や、グループ分け、整列を性別で分けることはしていません。性差について、固定観念をもって保育してはならないことを全職員が理解していますが、特に意識することなく、反省する仕組みはありません。 <コメント・提言> ・性差による先入観や固定観念は周りの大人の言動に影響を受けることが大きいことから、職員の無意識の言動についても職員同士でチェックしあう仕組みをつくることが期待されます。
Ⅱ－４ 保護者との交流・連携 	・入園説明会や進級説明会、懇談会で、保護者に保育理念、保育目標、園の方針を説明しています。また、連絡帳や園だよりの中で、保育方針や特別活動の意味、保育者の思いを伝えています。 ・行事後や、年に一度、園の自己評価に合わせて保護者アンケートを行い、保育方針が理解されているか、確認をしています。結果は園だよりの号外版で公表して保護者に知らせ、職員間で共有し、次年度の運営に生かしています。 ・0～2歳児は複写式の生活連絡票、3～5歳児は連絡ノートを持ち、保護者と担任でやりとりしています。 ・クラスノートに日中の子どもの様子を記載して職員間で引き継ぎ、担任でなくてもお迎え時に、保護者にその日の子どものエピソードを伝えられるよう努力しています。（本園） ・本園ではフォトフレームと連絡ボードを用いて、その日のクラスの様子を伝えています。また、行事や日常生活の写真撮影を業者に依頼し、ネット販売しています。 ・年1回、5月にクラス懇談会を行って、担任がパワーポイントの映像を流し保育の内容や意味、年齢ごとの年間計画や発達の見通しなどを伝えています。懇談会の欠席者には、後日懇談会の概要を口頭で説明しています。 ・個人面談は希望により0～2歳児は年2回、3～5歳児は後期に1回実施しています。その他、希望によりいつでも対応できることを保護者に伝えています。 ・相談はプライバシーに配慮し、面談中の表示をしています。相談は記録し個人ファイルにとじて、内容によっては園全体で継続してフォローしています。 ・園だより（ぴよんピョンだより、裏面にクラスのおたより）、献立表・マーマ食育だよりを毎月発行しています。 ・年度末の進級説明会で翌年の年間行事予定を配付し、保護者が予定を立てやすくし、園行事に参加しやすいよう配慮しています。各クラス2組ずつ、年間を通して複数日を設定し、保育参加を積極的に受け入れています。 ・保護者会組織はありませんが、保護者とはコミュニケーションを大切にし、地域の情報などを得たり、卒園児のお別れ会の保護者の話し合いの場に、保育室を提供しています。 ・運動会のお手伝いや、創立15周年記念パーティで保護者がバンド演奏するなどし、保育士も参加しています。また、本園・分園で合同して開催の「学びの部屋（育児講座）」で、保護者がベビーマッサージの講師をしたことがあり、保育士と協力して行いました。 <工夫している事項> ・保護者参観でリズム運動などの特別活動を見てもらい、保護者にいかに生き生きとした子どもの姿や、園の目標である身体づくり、心づくりのための保育の内容、園の方針を理解してもらえるか、内容を検討しています。 ・懇談会のお知らせを配付し、事前に懇談会で話し合いたいテーマや質問などを保護者から募っています。懇談会ではテーマを決めて、保護者同士話し合う機

	会を設け、他者の保育観を知る機会としています。5歳児は、小学生のいる保護者といない保護者の間で、質問会を設定しました。 ・分園では、保育参観「すこやか広場」を年2回土曜日に設定し、親子のふれあい遊び、コーナー遊びを体験してもらい、そのほか生活の様子のビデオを上映して、子ども中心の園生活の様子を伝えています。
--	---

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供 	・地域の子育てを支援する事業、園見学者、地域でのイベント協力時の交流などの取り組みを通し、園に対する地域のニーズの把握に努めています。また、篠原・岸根地区の地域教育連携サークル「すこやかサークル」が活発に機能し、地域での連携や支援などについて活動を行っています。港北区、社会福祉協議会、公私立保育園が開催の「わくわく子育て広場」の活動に参加し、各地域の子育て支援情報を得ています。 ・子育て支援事業として、園開放は、本園で幼児向け（プロの紙芝居の読み語り）、分園で0～2歳児向け（プロの紙芝居の読み語り、リズム運動）を毎月行っています。絵本の貸し出しは両園とも毎週水曜日に行っています。分園でのママ学びのお部屋（育児講座）は、ベビーマッサージ、食育講座など年2、3回行っています。
Ⅲ－２ 保育所の専門性を生かした相談機能 	・園入り口の掲示板や自治会の掲示板で地域の人向けに情報提供をしています。公園散歩で出会った地域の親子にお知らせを手渡しすることもあります。 ・育児相談は随時の実施としています。園開放や育児講座など、参加者の育児相談にも応じています。相談内容によって港北区役所、横浜市北部児童相談所など関係機関につなげられるよう一覧表を事務室に掲示するとともに、ファイルに保管しています。 <コメント・提言> ・育児相談については、定期的（最低週に1回）に相談日を設けての対応が期待されます。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ 	・運動会や卒園式に、卒園児や「すこやかサークル」の方々を招待しています。 ・「すこやかサークル」の年4回の定例会があり、11月開催のすこやか祭りや12月開催の地域すこやか音楽交流会を行っています。また、カリキュラム交流を行い、幼稚園、1年生、5年生との交流会や、中高生、養護学校生の職業体験を受け入れています。 ・篠原自治会の敬老の日や新年会の会合に、園の支援スペースを開放したり、長机などの備品を貸し出しています。 ・事務長が篠原中学校区防犯パトロールに参加したり、また、庭で遊ばせてもらっている方の竹林の裏山や、近隣の公園の清掃をしています。音の出る行事の前には事前に掲示や手紙で知らせ、地域と友好的な関係を築いています。 ・散歩の際には出会う方々に積極的に挨拶をしています。クッキング保育の前には、5歳児が八百屋に買い物に行っています。 ・分園の0、1歳児は近隣の高齢者施設を訪問し、デイサービスに来る高齢者と交流の機会をもっています。年長児が南部エリアドッジボール大会や、地域すこやか音楽交流会に参加したり、小学校訪問に行っています。 ・地域のお祭り、学童保育のバザー、子育てイベントのお知らせなどを掲示したり、チラシを持ち帰れるように置いています。

	<工夫している事項> ・「すこやかサークル」のネットワークで、岸根高校の文化祭の中で行われるすこやか祭りに参加するなど、活発な交流の機会をもっています。篠原中学校の吹奏楽部がクリスマスに演奏に来たり、篠原西小学校の5年生が、区内の企業のおもちゃで子どもがどのように遊ぶかを検証する総合学習の取り組みに協力したり、職員が中学校に職業紹介の話をしに出向くなどしています。
IV－2 保育所における福祉サービスに関する情報提供 	・園のパフレットを作成し、ホームページ、港北区の子育て支援NPOの「幼稚園・認定こども園・保育園ガイド」、港北区子育て応援マップ「ココマップ」に情報提供しています。 ・見学は保育に支障が出ないよう、1日4組まで受け入れ、可能な日をホームページに開示して、サイトから直接申し込みができるようにしています。 <工夫している事項> ・年3回地域向けに「ぴよんニュース」を発行し、すこやかサークルの定例会で配布したり、自治会の掲示板に貼って園の開放日程や育児講座、貸し出し絵本などの子育て支援の内容や園の保育の様子を知らせています。 ・見学者には、分園の見学のほか、本園で園の基本方針などを説明し、必ず本園・分園両方を見てもらうようにしています。
IV－3 ボランティア・実習の受け入れ 	・ボランティア受け入れマニュアルを整備し、園長が面談をして要望を聞き、趣旨が明確なボランティアは積極的に受け入れています。受け入れの意義や注意点については、園長が職員に説明しています。保護者には、写真をつけて立て看板で知らせています。 ・実習生受け入れのマニュアルを整備し、受け入れ時にはオリエンテーションを行って、園と実習生の趣旨を明確にしています。園長から職員に、実習生からの質問に的確に答えられる専門性を身に付けてほしいと、受け入れの意義や注意点について話し、保護者には園日より知らせています。 ・受け入れ窓口は主任ですが、育成は担当するクラスの担任で、実習中は毎日反省会をもち、意見交換しながら、意向を汲んで計画的に実習をすすめています。 ・ボランティアや実習生の感想や意見・職員の気づきは記録に残し、今後の運営に生かしています。

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
V－1 職員の人材育成 	・設置法人が示す職員の持つ知識や経験に照らした「職員のキャリアステージにおける人材育成指標」に基づき、4段階のキャリアステージ別人材育成計画が策定されています。 ・毎年の法人研修は全職員出席を基本としています。昨年度はチームワーク、今年度はマネジメント（保育理念を考える）をテーマに学んでいます。園内研修は現場ですぐに活かせる内容にしています。嘔吐処理、心肺蘇生など外部講師を招いています。全員が出席できるよう日程は2日間、時間帯も昼・夜で設定しています。その他、「食事」「保育のつながり」などグループ討議形式でも行っています。 ・外部の研修案内ファイルを用意し、希望する職員は受けることができます。 ・外部研修受講後は報告書を作成し、会議で研修内容を報告し職員間で共有して保育に生かしています。 ・常勤、非常勤に関わりなく役割分担をしながら責任を持って業務にあたっています。経験豊かな非常勤職員もおり、常勤職員を支えています。 <工夫している事項> ・職員会議の翌日に非常勤職員向けのサポート会議を実施しており、常勤職員と同じ内容を共有しています。

V-2 職員の技術の向上 	・指導計画に対する自己評価のほか、園の自己評価は職員がグループごとに5分野全38項目について話し合い、まとめており、自己評価を計画的に行う仕組みになっています。園長は、職員の自己評価結果を確認し、園としての課題を抽出しています。翌年度にさらに力を入れるべきことや研修計画に反映し、改善に取り組んでいます。 ＜工夫している事項＞ ・分園で始めたわらべうたの取り組みから講師の技術を学び、活動実践していることを本園でも取り入れています。個々の職員の子どもへの関わり方の意識や主体性の高まりとともに、実践からの学びを他の保育活動へとさらに発展させていこうとしています。 ・第三者評価受審にあたっての自己評価は本園、分園それぞれで行いました。その後、本園、分園で評価の違いが出た項目の分析を行い、両園での意識や考え方について、再度話し合い、園の自己評価としてまとめています。
V-3 職員のモチベーションの維持 	・設置法人作成の「職員のキャリアステージにおける人材育成指標」と人事基準規定がありますが、職員への周知度は十分とは言えません。 ・クラス運営に関しては、自分のクラスに何が必要なのか、クラスの子どもの年齢、発達に適切な指導になっているかなど職員は責任を持って対応しています。判断が難しい場合の最終的な結果責任は、園長が負う体制になっています。職員係分担があり、地域子育て支援、3R夢農園、食育など活動しています。 ・園長は、職員と人材育成指標や給与規定に基づき面談をし、成果・貢献度を評価しています。その他、必要に応じて随時、満足度や要望など把握に努めるとともに、職員に気づきを与えるような言葉かけを心がけ、モチベーションの維持、向上への働きかけを行っています。 ＜コメント・提言＞ ・「職員のキャリアステージにおける人材育成指標」を全職員に周知し、人事基準と連動させて職員のキャリア形成やスキルアップに見通しを持てるようにすることが期待されます。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
VI-1 経営における社会的責任 	・職員の守るべき規範については、就業規則に明記し、職員に周知しています。 ・経営、運営状況などの情報は、社会福祉医療機構、財務情報開示システムにより公開をしています。 ・新聞やニュース報道など他園の不正、不適切な事例など会議で話し合い、不適切な行為を行わないように意識を高めています。 ・園の3R夢農園での生ごみを利用した土づくりや野菜作りは、横浜市資源循環局の指導サポートを受けています。廃材の活用、LED照明など環境配慮の考え方、取り組みを「当園はECOの芽を育てます」として玄関掲示で保護者に知らせています。
VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等 	・職種に拘らず、子どもに関わる全職員を「保育者」として保育士（常勤・非常勤）、栄養士、調理職員、事務職員が日常的に連携を図り、子どもの育ちを支えています。また、園の自己評価にあたっては、調理職員（分園）も含め職員全員でグループ別に話し合い、結果を取りまとめています。 ・設置法人の「職員のキャリアステージにおける人材育成指標」により、主任クラスの人材育成が計画的に行われています。主任（本園、分園1名ずつ）は積極的に現場に入ってコミュニケーションを図り、各クラスチーフからの情報なども得て、個々の職員の業務状況を把握しています。状況により指導や助言を行ったり、相談に乗ったりしています。
VI-3 効率的な運営	・園長は、横浜市や港北区の園長会、全国社会福祉協議会が主催する施設長会議、法人内の管理職会議などで事業運営にかかわる情報の収集をし、分析をしています。人材の確保という運営面での重要な課題は検討の上、解決に努めること

	としています。 • 2019～2023 年「マーマ保育園の未来像中長期計画」を立て、園の方向性を定めています。 • 単年度事業計画の 3 つのキーワードとして、安定した園運営を基に、保育の質の向上、安全保育管理を上げています。2018 年自己評価表（保護者アンケート含む）のまとめから、2019 年度の方向性を決め、取り組んでいます。
---	---

利用者家族アンケート

事業所名：マーマしのはら保育園・マーマしのはら西保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

結果の特徴

◇ 調査対象

調査時点での在園児数 180名、全保護者 148家族を対象とし、回答は 114家族からあり、回収率は 77%でした。

◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で 保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態で評価機関が回収しました。

◇ 総合満足度

肯定的な回答は96%（満足72%、どちらかといえば満足24%）と高い評価を得ており、否定的な回答は4 %（どちらかといえば不満 4%、不満0 %）でした。

◇ 比較的満足度の高い項目（肯定的な回答が96%以上の項目）

- 1) 問2「入園前見学等の情報提供」が96%、「園の目標・方針説明」「子どもの様子・生育歴を聞く対応」は97%
- 2) 問3「年間の保育や行事の説明」が97%
- 3) 「問4【遊び】の「クラスの活動や遊び」「おもちゃや教材」は98%、「遊びを通じた友達と保育士との関係」が97%、「戸外遊び」が96%
- 4) 問4【生活】の「給食の献立内容」「給食を楽しむ」が96%、「基本的生活習慣への取り組み」97%
- 5) 問5「落ち着いて過ごせる雰囲気」が98%、「施設設備」が96%
- 6) 問6「行事の開催日や時間帯への配慮」が96%
- 7) 問7「子どもが大切にされている」97%、「保育園生活を楽しんでいる」98%

◇ 比較的満足度の低い項目（否定的な回答が15%以上の項目）

- 1) 問6「送り迎えの際の子どもの様子の説明」が20%
- 2) 問5「不審者侵入対策」が15%

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
%	16	71	9	4	0	0



問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
%	73	27	0	0	0	0

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	70	13	2	0	15	0
その他:						
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	64	32	1	0	3	0
その他:						
園の目標や方針についての説明には	57	40	2	0	1	0
その他:						
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応については	71	26	3	0	0	0
その他:						
保育園での1日の過ごし方についての説明には	55	40	4	0	1	0
その他:						
費用やきまりに関する説明については (入園後に食い違いがなかったかを含めて)	57	28	11	2	2	0
その他:						

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	63	34	3	0	0	0
その他:						
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	44	47	4	1	4	0
その他:						

問4 日常の保育内容について

遊びについて

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	%	63	35	2	0	0	0
		その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているか については	%	65	31	4	0	0	0
		その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置 いてあるか、年齢にふさわしいかな ど)	%	78	20	1	0	0	1
		その他:					
自然に触れたり地域に関わるなど の、園外活動については	%	67	28	4	0	1	0
		その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関 わりが十分もてているかについては	%	68	29	2	1	0	0
		その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくり への取り組みについては	%	57	36	4	0	3	0
		その他:					

生活について

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	%	78	18	1	0	3	0
		その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるか については	%	74	22	1	0	3	0
		その他:					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗 いなど)の自立に向けての取り組み については	%	73	24	3	0	0	0
		その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じ て対応されているかなどについては	%	68	25	4	2	1	0
		その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お 子さんの成長に合わせて柔軟に進め ているかについては	%	58	20	7	3	12	0
		その他: まだ、始めていない。おむつが外れてから入園した。					
お子さんの体調への気配りについて は	%	72	21	4	3	0	0
		その他:					
保育中にあったケガに関する保護者 への説明やその後の対応には	%	61	24	9	3	3	0
		その他:					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
施設設備については %	68	28	1	1	0	2
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については %	72	26	1	1	0	
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については %	39	44	13	2	2	0
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については %	49	41	4	3	3	0
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については %	56	39	4	0	1	0
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については %	65	30	5	0	0	0
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については %	66	30	3	1	0	0
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については %	42	38	16	4	0	0
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については %	57	30	10	2	1	0
	その他:					
保護者からの相談事への対応には %	60	29	5	4	2	0
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には %	49	29	8	6	7	1
	その他:					

問7 職員の対応について

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	%	79	18	3	0	0	0
		その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	%	77	21	1	0	1	0
		その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	%	49	18	4	0	28	1
		その他:					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	%	71	21	5	2	1	0
		その他:					
意見や要望への対応については	%	56	32	9	1	2	0
		その他:					

問8 保育園の総合的評価

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	無回答
総合満足度は	%	72	24	4	0	0

観察方式による利用者本人調査

令和元年 10 月 28 日

事業所名：マーマシのはら保育園（本園） マーマシのはら西保育園（分園）

【0 歳児】（分園）

<公園遊び>

公園に着くと、「こんにちは」と先に遊びに来ていた地域の人から声がかかります。0 歳児の別のグループと 1 歳児クラスの 1 グループも来ています。子どもたちはトコトコと歩き出します。月齢が低い子ども達は、草が生えている場所でお座りをして、草の感触を楽しんだり、ハイハイをしたりしています。草のない場所へもハイハイをしていきます。保育士が地面にアニメのキャラクターを描くと、興味深げにしゃがんで少し見ていましたが、持っていた枝で払ってしまいました。別の保育士は枯れ葉を集めて、子どもの頭にハラハラと落とします。子どもはキョトンとした表情を見せますが、落ちた葉を手に取り、見つめています。

<室内遊び>

公園から戻ると、ハイハイがしっかりできる子どもは階段を伝い登りをします。「いちに、いちに・・・がんばれ」「あとちょっとだよ」と保育士は励ましと促しの言葉をかけます。保育室に戻ると、子ども達はブロック、木製レールを組んで電車ごっこなど思い思いに遊びます。職員手作りの、箱状のものに電気のスイッチ、鍵、電卓などを取り付けた道具は子ども達のお気に入りようです。低い衝立にはヒモ、鈴など取り付けています。子どもを膝に乗せ、わらべ歌を口ずさんでいる保育士がいます。薄い透けた布を顔に掛けたり、取り外したりを楽しんでいる子どももいます。

<排泄>

公園遊びの後、食事の後など、おむつ台が置いてある小部屋でマンツーマンでおむつを替えてもらいます。「ヤイヤイ」という喃語に「ヤイヤイ」と優しく応える保育士の声が聞こえます。

<授乳・食事>

月齢の一番小さい子どもの分から順番に食事の準備をします。食事は 1 対 1 の対応です。保育士は子どものペースに合わせ「モグモグ」「ごっくん」「もう一口」など声をかけています。次の準備をしている保育士に向かい「あー」と待ちきれなくて急かすような声を出す子どももいます。「ごめん、すぐ準備するからねー」「今日はお魚だよ」と応えています。月齢の高い子どもは自分でスプーンを持って食べています。保育士は時折子どものスプーンにおかずやご飯を

のせています。様子を見ながら「あと、お野菜これだけ食べてみよう」と促しの声かけをしています。「(デザート) グレープフルーツもあるよ。食べる人?」
「あい」子どもは元気に手を挙げます。

授乳が必要な子どもは、離乳食後に飲んでいきます。保育士に抱っこしてもらいながらミルクを飲んでいると、心地よくなってきたのかウトウトしてしまいます。抱っこしてもらいながらも、自分の両手で哺乳瓶をしっかりと持って飲んでいる子どももいます。解凍した母乳を飲んでいる子どももいます。

<午睡>

食事が終わった子どもの様子を見ながら布団を敷き、子どもを午睡に誘っています。うつぶせを好む子どもはそのまま保育士は背中を優しくトントンしています。寝入った後、そっと仰向けにしています。

【1歳児】(分園)

<散歩・外遊び>

襟たれのついた帽子を被って、散歩に出かけます。玄関で靴下をはいて、靴を履きます。保育士は自分でしようとする子どもの様子を見て、できないところを手伝っています。

歩いて10分ほどの、お庭で遊ばせてもらえるお宅に行きます。裏庭の竹藪の斜面を登り、どんぐりが落ちているのを見つけます。保育士は「ビニールあげるね」と言って、子どもが拾ったどんぐりを入れられるようにしています。竹の根に気をつけながら、保育士は結構な斜面を登って見せます。子どもたちは四つん這いになって、登ろうとしますが、手の汚れを気にしてなかなか登れない子どもがいます。下から別の保育士が「大丈夫だよ、パンパンってすればきれいになるからね。」と励まし、登りきった他の子どもたちも「がんばれ」と声をかけて、その子どもは登りきることができ、皆で拍手をしました。

里芋の大きな葉っぱが気になった子どもがいて、「お顔より大きいね」と保育士が声をかけます。その子どもは顔を近づけ、「いいにおいがする」と言ったので、「どれどれ、匂いする?」と保育士も嗅いでみましたが、どうやら辺りに漂う金木犀の花の匂いだったようです。

あとから1歳児の低月齢のグループがこのお庭にやってきました。芝生の上を元気に走り回っています。保育士の声かけで、庭の奥の竹藪の入り口まで行きました。初めて来たので斜面は登らず、竹藪の雰囲気に見入っています。竹の葉っぱを踏む感触を確かめるように歩いていました。

<排泄と着替え>

散歩から帰って、どろんこになったズボンを脱いで、紙パンツの姿でトイレが空くのを待っています。保育士が手遊びをしたり、わらべ歌を歌って、子ど

もが飽きないようにしています。自分の棚から紙おむつを持ってきて、4人のうち一人が便座に座り、3人はトイレ内の手作りの台に座って順番を待っています。トイレでおしっこが出た子どもには、保育士が「〇〇ちゃん、そう、出たね、できたね」と声をかけています。すると待っていたうちの一人がうんちをしていて、保育士は他の子どもたちにここで待っててね、と言って、奥のオムツ替え台の上に子どもを仰向けに寝かせて、「きれいにしようね」と言いながら、おしりを拭き、手早くオムツを変えています。4人が新しい紙おむつをはくと、そのまま横の着替えスペースに移動して、座ってシャツを脱ぎ、カゴから出した新しいシャツとズボンに着替えます。

天窓から入る日差しが、着替えをする子どもたちの顔にあたるので、保育士はロールカーテンを下げています。自分でズボンをおしりの半分まで上げた子どもが「できないー」と訴えています。他の子どもの着替えを手伝っていた保育士は、「はい、ちょっと待ってね、お仕上げするからね」と伝え、「お仕上げしてー」と言って子どもは待っています。

着替えが終わると、めいめい好きなことをして遊び始めます。絵本を拵げている子ども、自動車のおもちゃで遊ぶ子ども、おもちゃのフライパンを持って歩き回る子どもがいます。保育士がままごとコーナーのカーペットの上で「ここでお料理できるよー」と声をかけると他の子どもたちも集まってきて、ままごとセットに手を伸ばし、にぎやかにお料理が始まりました。

<食事・低月齢児>

保育士に名前を呼ばれた子どもから、自分のエプロンを持って食事のスペースに移動します。テーブルの上にお手拭があり、一人の保育士が子ども二人ずつの食事の介助をして「おさかなね」「おいしい？」などと声をかけています。アレルギーのある子どもには保育士がついて、一人で別のテーブルで食べます。

自分でスプーンを手にとって、すくって口に運んだり、両手で汁椀を持ってスープをおいしそうに飲んでいます。手づかみになってしまう子どももいますが、保育士は笑って見守っています。

食事が終わると、保育士がガーゼで口の中を拭いています。

<午睡>

着替えが終わると、着替えの入っていた可動式の棚を食事スペースの奥に移動させて、午睡のための広い空間ができました。保育士が眠くなった子どもの布団を布団庫から出し、子どもは自分で横になります。すぐに眠らない子どもも横になりながら、保育士がそばに来ておでこや身体をさすられるうちに、眠りに入っていました。

【2歳児】(本園)

<遊び>

園庭でボール遊びをしています。小さめの古タイヤを二つ重ねて台にし、細長い板をスロープ状に置いています。子どもは一人ずつ順番に古タイヤに入り、保育士の「3、2、1。どーぞ」の合図で板にボールを転がしていきます。「コロコロ…」「オー、上手」転がったボールを子どもは嬉しそうに追いかけて、またタイヤに戻ってきます。砂場で遊んでいるグループもいます。型はめに「かえるー」と言いながら砂を入れている子どもに「〇ちゃん、パカってしてごらん」と保育士が促します。保育士が少し砂を加え、子どもに手を添えてひっくり返します。カエルの形ができ上がります。「かえるだね」と子どもと目を合わせ保育士は微笑みます。

保育室では、床に車、ブロック、ビーズなどを出し、遊んでいるグループがいます。ビーズをお皿に載せ「はい」と保育参加中の保護者に差し出します。「ありがとうございます。作ってくれたの？」と笑顔で受け取っています。紙製のパズルや木製のパズルを棚から自分で持ってきて、机で取り組み始める子どももいます。別の場所では保育士が数名の子どもに絵本の読み聞かせをしています。一人の子どもは保育士の膝を独占し、周りにいる2、3名の子どもは、熱心に絵本を覗き込んでいます。保育士が気づき「〇〇ちゃん、お鼻拭こうか？」と促します。子どもは鏡の前に行き、そこにセットされているティッシュペーパーを引き出し、鏡を見ながら鼻を拭いています。「はい」と言って、保育士が再度綺麗に拭いています。

<排泄>

園庭遊びから戻ると、トイレに行きます。順番にトイレに座り、水を流します。トイレの前に置いている椅子に座って自分で紙パンツを穿いています。まだトイレに行っていない子どもに保育士が「おしっこ出た？」と聞きます。子どもは「出ないよ」と伝えますが、保育士がパンツを確認し、「出てるよ～」と言いながら子どもの手を引きトイレに向かいます。

<食事>

保育士は、おひつの蓋を開け、「わー、湯気が・・・ほかほかだね」と子どもたちにご飯を見せます。ホカホカと立ち上る湯気に子どもたちも「わぁ」と湯気を目で追います。保育士は「いっぱい食べてね」と言いながらよそっていきます。おかずも「いっぱい食べれそう？」と子どもに確認しながら盛り付けていきます。「(副菜の) お野菜おかわりあるからね」と子どもたちに伝えます。テーブルごとに盛り付けが終わると、「いただきます」をします。そばに付いた保育士が「おいしい?」「〇ちゃん、良く噛んでね」「お茶碗は手を添えてね」など子ども様子を見ながら声をかけています。

<午睡>

窓のロールカーテンを下げ、静かな環境を作っています。子どもは自分で好きな場所に布団を敷きます。子どもは保育士の膝に頭をのせて甘えたり、お腹をさすってもらったりしています。隣で寝ている子ども同士顔を近づけ合って嬉しそうにクスクス笑っています。眠くて半分うつらうつらしている隣の友だちの鼻を優しくコチョコチョとしている子どももいますが、少しずつ静かになり入眠していきます。

【3 歳児】（本園）

<遊び>

保育参加の保護者たちも交え、園庭で遊んでいます。雲梯では「〇〇ちゃんのおとうさん、みてー」と子どもがアピールします。保護者は「すごーい」と返します。「サッカーやろう」と誘われている保護者もいます。すべり台では保護者が下から「大丈夫おいで」と声をかけますが、子どもは「やだ、こわい」となかなか勇気が出ない様子です。少しして、慎重にソロソロと降りて行きます。「できたね」と保護者に抱っこしてもらい、子どもは満面の笑みを浮かべます。

<排泄>

食事中「せんせい、トイレ」と言って、席を外す子どもがいます。保育士は「今度は食事に前に済ませておこうね」とさり気なく伝えています。午睡の前に、トイレに行きたい子どもは行っています。

<食事準備>

一人の子どもがテーブルの上を拭いています。「できたよー」というと、「ありがとうございます」と保育士が応えています。

トイレに行く子どもには「手を洗ってね」と保育士が声をかけています。保育参加に來ている保護者の前で、根気強く脱いだ服を畳んでいる子どもがいて、保育士はしゃがんで子どもと視線をあわせて「ああ、できたねー」と褒めています。

保育士が、スープ椀、ごはん茶碗、おかず皿などの食器と、スプーンをテーブルに配ります。スープの鍋やおかずの入ったボールを各テーブルに持って周り、「ちょっと」「いっぱい」など、食べる量を聞きながら子どもの目の前で盛り付けています。お櫃をテーブルに持っていき、ふたを開けると湯気が立ちます。「いいにおい」と子どもが言って、「いいにおいがするね」と保育士が応えています。

<食事>

「せんせい、ぼく〇〇（柔らかいキャンディー）たべる」「ぱん、おいしいよね」

など、子どもたちは会話を楽しみながら食事をしています。ある子どもが「きらいなものは、おやさいといっしょにたべるんだよ」と、隣の席の子どもに教えているのを聞いた保育士は、一瞬びっくりしながらも「そうなんだー」と笑顔を返します。調査者とおかずの残り具合が同じ子どもに「どっちが早く食べるか競争しようか」と話を持ちかけると、それを聞いた別の子どもから「きょうそうは、しません」とぴしりと調査者をたしなめる言葉が出ます。おかわりは保育士に伝え、よそってもらいます。「ごちそうさま」をした子どもは自分で食器を下げ、歯磨きをします。

<午睡>

食事が終わると、子どもは自分で布団を出し、敷きます。お気に入りの場所に敷こうとした子どもに保育士は「まだ、ご飯を食べているお友だちがいるから、ちょっとこっちに敷いて待っててくれるかな」と頼んでいます。子どもは納得し、別の場所に布団を敷いて、横になります。時間を置いて、また保育室を覗くと、先ほどの子どもはいつものお気に入りの場所でぐっすり寝ていました。

【4 歳児】（本園）

<活動や遊び>

ブロックで凝った乗り物を作った 3 人の子どもたち、「すごい作ったね」というと、「この本見て作ったんだよ」と誇らしげに見せてくれます。「これはね、あの棚の上に飾っておけるんだけどね、金曜日になったら壊すことになってるんだ」と教えてくれました。

積木を床の上につなげて、柵のようにして、その中にいろいろな動物の人形を並べて遊んでいます。畳 1 畳分ぐらいの、いろんな動物がいる大作で、「これは、何を作ったの？」と尋ねると、「ズーラシア！」と目を輝かせて答えます。良く見ると、オカピもいます。「そうね、すごいね」と感心してみると、一人が、「ねえ、チンパンジーは何食べる？」と尋ね、子ども同士、「草」と言い合い、積木を草に見立ててあげています。「オカピは何食べるんですか？」という話になって、また「草」ということになり、「〇〇ちゃんが草いっぱい持っているから、分けてもらおう」などと言って、協力し合って遊んでいます。赤いブロックを見つけた子どもが、「これはスイカだから、ぞうの赤ちゃんにあげる」と言ってぞうの親子の足元に置いていました。

この遊びを傍で見ていた他の子どもが、「こんなにすごい作っちゃって、（お昼寝までに）壊せるの!？」と、感嘆と困惑の混じった声でつぶやきました。

テーブルでは、保育士と一緒にハサミを使って製作をしています。「丸く切るんだよ」「手を切らないように、セロテープはこっちから切った方がいいよ」な

どと保育士が伝えています。ミノムシだそうで、好きなように顔を書いています。保育参観に来た保護者と折り紙をしている子どももいて、赤い折り紙でハートをつくって嬉しそうでした。

<食事>

テーブルを台布巾で拭いている子どもがいます。お当番さんのようです。そのあと乳酸菌飲料を配っています。

保育士が、ごはん茶碗、お皿を子どもたちの前に置いていきます。そしてお櫃やおかずの入ったボールを順に持ってまわり、一人ずつ量を聞いて盛り付けていきます。「椅子が曲っていないかな」と保育士が声をかけ、子どもたちの配膳が終わったところからテーブルごとに「いただきます」をして食べ始めます。

【5 歳児】(本園)

<活動や遊び>

園庭で、二人乗り三輪車で 2 階からの階段の周りをぐるぐる回っています。そのあとを一人が三輪車で追いかけて、狭いところを器用に操っています。ロープをつかんで斜面を登ったり、大型遊具の滑り台をしたり、思い思いに遊んでいます。4 歳児、3 歳児、2 歳児もいるので、危険の無いように保育士が見守っています。

ドッジボールなどをして、園庭で思い切り遊んだ子どもたちは、前日の雨でできた水たまりで泥んこになっています。テラスで汚れたものを脱ぎ、汚れ物を袋に入れていきます。手を洗い、自分で着替えをして、トイレに行きます。

一人の子どもが、「ねえ、今日夜外で遊ぶ日？」と聞いてきました。「夜？」と言われてキョトンとしていると、「ここに何て書いてあるか、見て？」といわれて見てみると、クラスごとに園庭で遊ぶ予定表でした。「お昼寝終わってから、夕方ね、そうね、今日遊ぶみたいだよ」と答えると、「じゃあ、これは今は着ない」と、お気に入りの洋服を大事そうに畳んで自分のカゴにしまい、他の服を選んで着ていました。

絵本を読んだり、電子ピアノを弾いたり、ぬり絵やカードゲームをしたり、それぞれ好きなことをして遊んでいます。

食事の前に 5 歳児 2 クラス合同でお誕生日会をします。皆が揃うまで、保育士が絵本を読みます。子どもたちのリクエストにこたえて、「小学校へ行こう」の本です。壁には就学時健康診断のお知らせがあり、小学校への期待があるのか、子どもたちは食い入るように、話に引き込まれていました。

お誕生日の子どもはチャンピオンベルトのようなものをつけていて、皆の前で紹介されて嬉しそうです。「何歳になりましたか？」「6 歳です」「質問がある人！」と保育士が言うと、たくさんの手が挙がります。「好きな色は何ですか？」

とか「好きな恐竜は何ですか？」などの質問があり、恐竜の名前を答えたのですが、「わかんない」「知らない」という子どもたちがいて、「あとで調べてみようね」と保育士が声をかけていました。

午睡の前に、布団の上で横になりながら、生活発表会とする「アラジン」の劇のセリフ合わせをしています。一人一人台本を持ち、良く見ると自分の担当箇所には○をしています。その日いない子どものパートは、保育士が代役を務めます。

こんなに字が読めるのかと、驚きますが、必ずしも全員が読めているわけではなさそうです。何度もつかえてしまう子どもには、保育士が、「もう少し言いやすいように（セリフを）変えようね」と言って、その子はホットした表情を見せました。

【合同でリズム運動】

講師のピアノの音に合わせて、いろいろな動きをしています。担任の保育士が立ち上がるとそのクラスの子どもたちもあとについて、横にギャロップしながら円を描き、何周かするうち、ポンと音が鳴ると 180 度身体の向きを変えて回ります。

5 歳児が周り終わると、次は 4 歳児で、次は 3 歳児で、年齢により、少しずつ回る回数が少なくなります。自分たちの番でないときは、座って見えています。

保育参観に来た保護者達も見守るなか、子どもたちは息を弾ませながら、思い切り身体を動かしていました。

第三者評価を受審して

元号が平成から令和へと変わった大きな節目の年に、今回、第三者評価3度目の受審となりました。開園当初からの理事長であり前園長のことは「常に主役は子ども達」を日々努めています。今回、毎年行っている自己評価を更に深めた形で、職員全体での話し合いの中で出た園としての課題に気づき、第三者評価では、もう一歩具体的な気づきやヒントをいただき、考える為の視野を広げることが出来たと感じています。

「優れていると思われる点」として挙げていただいた項目については、継続し、より深めていかれる様に、また「改善や工夫などを期待したい点」としてあげていただいた項目に関しても実際に生かし、改善にむけ考え、取り組み、より充実した園を目指したいと考えています。また今年度、保育理念・目標を職員一人一人が理解し、皆で深め合い達成していける様に法人研修でも考える機会も持ちました。「常に主役は子ども達」であり、保護者や地域の方々、職員等みんなに優しくて温かい園作りへと、同じ方向をむいて理念や目標にむかっていかれる様、努力して参ります。

最後になりましたが、保護者の皆様にはお忙しい中、アンケートのご協力を多数いただきまして感謝申し上げます。また評価機関の方々には細部にわたる観察や温かな視点でのご教示をいただき、有意義な時間を持たせていただきました。ありがとうございました。

マーマシのはら保育園

マーマシのはら西保育園

園長 丹羽 滋子